

AM



FEATURE

I

ホーチミンシティへ。 モダンクラブの街角を巡る。

ベトナム随一の商都、ホーチミンシティ。21世紀を迎えてカチの急激な経済発展の下、新旧の建造物が混じり合う街並みのように、伝統的な工芸品にも新風が吹いている。現代的なセンスと高度な職人技の融合。新しいベトナムをクラブを求め、街を巡った。

文●原田真二 Text by Shiraji Fujita 写真●秋田大輔 Photo by Daiboku Akita
取材協力●ベトナム航空 河村さくみ Special Thanks to Vietnam Airlines, Kikumi Kawamura

VIETN

Modern Crafts in Ho Chi Minh City



右/フランス統治時代の名建築のひとつ「サイゴン大教会」。現在は修復工事中。中/高級リネンブランド(カトリスドゥスアル・メゾン)の工房では、高度な刺繍技術が生きている。左/ホテル(ザレヴェリー サイゴン)の最上フロアにある「レヴェリーラウンジ」からは、サイゴン川とホーチンシティの街並みが一望できる。奥に見える建造中のビルは、ベトナム最高層になる予定。

Hotel

[ホテル]

まばゆいほどの空間に咲く、
ベトナムの気品と
しとやかなホスピタリティ。



全館「レヴェリーラウンジ」の家具は、イタリアのヴィジネアで統一。実に華やかな空間に、伝統的なアオザイを着たスタッフが、心地よくもてなしてくれる。上/ラウンジで提供されるアフタヌーンティーセット、市内を見下ろしながら、優雅な午後のひとときが過ごせる。

The Reverie Saigon

ザ レヴェリー サイゴン

22-36 Nguyen Hue Boulevard & 57-69F Dong Khoi Street, District 1, HCMC

☎ +84-28-3823-6688

www.thereveriesaiigon.com

ザ・リーディングホテルズ・オブ・ザ・ワールド(日本)

☎ 0120-086-230



右/ロールスロイス・ファントムでの送迎も頼める。空港からラグジュアリーな世界へ。左/7階のコピーに飾られたバルディ製の大時計。大理石の間に見える花の模様は、ペネチアの名門タイルブランド、シチスのモザイクタイルによるもの、空間の隅々まで贅が尽くされている。



プティックがひしめく市内1区は、急成長を遂げる街の象徴的な地区でもある。ガラス張りの高層ビルも林立。そのひとつ「タイムズスクエア」の高層階をメインとして、2015年に開業したホテルが「サレヴェリーサイゴン」だ。

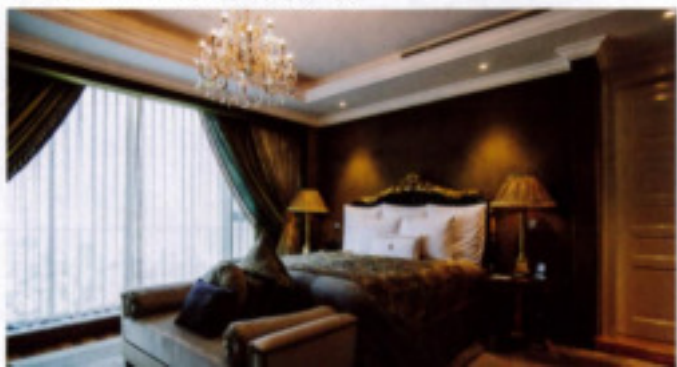
黄金の装飾に囲まれ、シャンデリアが下がるエントランスは、まさしく「レヴェリー（幻想）」の名の通りのもので、7階のロビーに進めば、さらに豪華な雰囲気は増す。フィレンツェの老舗家具ブランド、バルディの特注大時計や、世界に2つしかないオーストリッチレザーのソファなど、家具の博物館のような空間が広がっている。さらに驚くべきは、ジオルジエッティやプロヴァシ、ウイジオネアといった、イタリアの名

門インテリアブランドの高級家具が、ロビーやダイニング、客室のいたるところに、惜しげもなく配されていること。それらのブランドに特化して内装をコーディネートした「デザイナーズスイート」という特別な客室まで用意されている。

いずれの部屋も、窓にホーチミンシティの絶景が広がる。それでも、できればジュニアスイート以上の客室を選びたい。最上階の38・39階に位置する「レヴェリーラウンジ」が利用できるからだ。

街を見下ろす、静謐なラウンジ。洋風料理の他、フオーも用意する朝食。午後はアフタヌーンティ、夜はイブニングカクテルとともに、特別なひとときが過ごせる。もはや外出するのも、ためらってしまふ。

「デザイナーズスイート・バイ・プロヴァシ」の寝室。プロヴァシの家具で統一され、クラシックなイタリアンスタイルが現事に表現されている。



最上級スイートのひとつ「サイゴン・スイート」。2フロアからなる豪華なスイートには、主にイタリアのポルトローナ・フラウやカッシーナの家具が採用されている。フランク・ロイド・ライトのデザインによる名作家具も配置。

美食、そしてスバの施術。
ベトナム最上の滞在を。



右上/イタリアンの「R&C」で出される前菜一例「アスパラガスとオーガニックエッグのクリーム、チアシードソースと熟成パルサミコとともに」。左上/3R及びかな「R&C」の個室。右下/6階のオールデイダイニング「カフェ・カーディナル」。左下/「ザ・ロイヤル・パビリオン」の名物料理「タロイモの織切りとビーナッツの素揚げ」。





VIETNAM

Modern Crafts in Ho Chi Minh City

右/「ザ・スパ・アット・ザ・レヴェリー サイゴン」のレセプション。らせん階段を上りスパルームへ。左/温めた竹のスティックで筋肉をほぐすマッサージ。ホットストーンとはひと味違う感覚が得られる。



ため息が出るような贅沢なインテリアと同様に、ダイニングの料理も質が高くバラエティーに富んでいる。イタリアンの「R&J」は、ナポリ出身のシェフが、南イタリアの家庭料理を斬新なひと皿で表現。バー「ザ・ロング@タイムズスクエア」では、ベトナムビールやカクテルとともに、石窯で焼いたピッツァも味わえる。さらに、ホテルのオーナーが香港出身ということもあり、中華レストラン「ザ・ロイヤル・パビリオン」の味は、地元のエグゼクティブが足繁く通うほど評価が高い。右頁の写真の山のように積まれた「タロイモの細切りとピーナッツの素揚げ」は、香ばしい風味と絶妙な食感が後を引き、箸が止まらなくなる。いずれのダイニングも格式張らず和やかな雰囲気。実に居心地がよい。

そしてベトナムの滞在に欠かせないのがスパでの施術だろう。ガラスのカップで血液を皮下まで吸い出すカッピングは、ベトナムではポピュラーなもの。あるいは温めた竹のスティックでのマッサージなど、伝統的な施術をアレンジしたトリートメントも多い。欧州のオーガニックプロダクトをはじめ、アマゾンのクレイ、ヒマラヤのピンクソルトなど、トリートメント製品も高品質なもの。少し強めのマッサージが、凝り固まった心身をほぐしてくれる。

至れり尽くせりの市内最高峰のホテル。クラフト店巡りに、これ以上の拠点は考えつかない。



右/「ザ・ロング@タイムズスクエア」では熱帯に似合うオリジナルカクテルを、ここは全長48mの大理石カウンターが有名。左/プールも完璧。パラソルの下、デッキチェアに身を預けて過ごしたい。

